

慶應義塾大学

大学院学則 別表7（第3条関係）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

| 研究科 | 専攻 | 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 |
|---------|---|---|
| 文学 | | 文学研究科は、本塾建学の精神に則り、哲学・倫理学、美学美術史学、史学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学に関する高度で専門的な教育と研究を通じて、深い学識と卓越した専門的能力を培い、高い見識を持って第一線で活躍する研究者および高度の専門性を備えた職業人を育成することを目的とする。 |
| | 哲学・倫理学 | 哲学・倫理学専攻は、哲学、倫理学の分野の専門研究を通じて、高度な専門知識を身につけ、幅広い知見をもって研究・教育にあたる人材を育成することを目的とする。 |
| | 美学美術史学 | 美学美術史学専攻は、美学美術史学、アート・マネジメント、それぞれの分野において、美と芸術の原理、芸術の歴史、芸術の社会的機能などに関する専門的（理論的ならびに実践的）研究を通じて、高度な芸術研究者ならびに芸術運営の専門家として有用な人材を育成することを目的とする。 特に、理論研究・歴史研究を行う美学美術史学分野では、修士・博士課程を通じて、美学・芸術学、日本・東洋美術史、西洋美術史、音楽史、舞台芸術史などの教育・研究が行われ、芸術一般ならびに各ジャンルにおいて高度な知識を有する専門研究者として内外で活躍する人材の養成をめざしている。 また、アート・マネジメント分野では、大学卒業後3年以上で実務経験を有する社会人を対象とした修士課程を通じて、アート・マネジメント、アート・マーケティング、知的資産の管理、芸術・文化資源の活用などの教育・研究が行われ、芸術運営において必要な知識ならびにスキルを修得したプロフェッショナルの養成をめざしている。 |
| | 史学 | 史学専攻は、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学、考古学の各分野の専門的研究を通じて、歴史学に関する高度な知識を身につけ、過去の社会や出来事から現在の人類のあり方を考え、未来の可能性を提案することができる人材を育成することを目的とする。 |
| | 国文学 | 国文学専攻は、国文学分野と日本語教育学分野とから成る。国文学分野では、国文学および日本語学（国語学）の専門的研究を通じて日本文化を多角的に把握し、これに関する高度な専門知識を有する教育者・研究者、ならびに専門知識を広く社会活動に活かすことのできる人材を育成することを目的とする。日本語教育学分野では、日本語学ならびに日本語教育学の分野の専門的研究を通じ、非母語話者の視点を踏まえた分析方法を身につけ、日本語に関する幅広い専門的知識を修得して、高等教育機関における日本語教育の範囲にとどまらず、日本語が必要な研究分野あるいは職種で活躍できるような人材の育成を目的とする。 |
| | 中国文学 | 中国文学専攻は、中国語学・中国文学分野の専門的・学際的研究を通じて、深い専門知識を身につけ、併せて中国文化の多様性を広範な視野をもって探求する柔軟かつ応用性ある研究能力を培い、文献による理論と研究者間の相互切磋による実践を、個性輝く研究成果として斯界の第一線に発信し得る人材を育成し、かかる人材の活躍を期して専門領域に於ける日中学术交流の大いなる発展に貢献することを目的とする。 |
| | 英米文学 | 英米文学専攻は、英語学、英文学、米文学の分野の専門的、学際的研究を通じて、英語、英米文学の専門的な知識と研究方法を身につけ、英語圏文化に関わる理解と知的創造に資する貢献を国内外においてなし得る人材を育成することを目的とする。 |
| | 独文学 | 独文学専攻は、ドイツ語圏の言語、文学、文化の分野の専門的および学際的研究を通じて、人文学の専門性を培い、社会で幅広く活躍しうる「世界市民」（ゲート）を育成することを目的とする。 |
| | 仏文学 | 仏文学専攻は、広義のフランス語、フランス文学分野の専門的および学際的研究を通じて、人文学的専門知識を身につけ、国際文化の創造と批判的省察に寄与する人材を育成することを目的とする。 |
| 図書館・情報学 | 図書館・情報学専攻は、図書館・情報学分野の専門的研究を通じて、図書館・情報学の専門的知識を教授し、図書館・情報学分野の卓越した研究者ならびに高度な専門性を備えた職業人を育成し、もって図書館・情報学分野の研究と実践の発展に寄与することを目的とする。 | |
| 経済学 | 経済学研究科の教育目的は、慶應義塾の建学の精神を踏まえつつ、経済現象を適切に分析し深く考察できる高度な研究能力を持ち、学界のみならず実社会で活躍できる人材を養成することである。 | |
| 法学 | | 法学研究科は、本塾建学の精神に則り、法学と政治学の専門知識のうえに、現代社会の抱える諸課題を、学術的観点から論理的かつ実践的に分析できる人材の育成を図り、もって学理の創造的発展に寄与することを目的とする。 |
| | 民法法学 | 民法法学専攻および公法学専攻は、法学のすぐれた研究者の育成にとどまらず、社会において生起する諸問題を法的な視点から分析し、法的論理に基づき主体的に判断できる人材の育成を目的とする。 |
| | 公法学 | |
| 政治学 | 政治学専攻は、政治学のすぐれた研究者の育成にとどまらず、社会科学全般についての基礎的素養を踏まえた、高度に理論的かつ実践的な能力を有する人材の育成を目的とする。 | |

| | | |
|-----|----------|--|
| 社会学 | | 社会学研究科は、本塾建学の精神に則り、社会学、心理学、教育学分野に関する深い専門性と広い学際性を備えた学識を授け、高い見識を持って第一線で活躍する研究者および高度の専門性を備えた職業人を育成することを目的とする。修士課程は、社会学、心理学、教育学分野において研究活動を行ううえで必要な基礎的な研究能力および高度の専門性が求められる職業を担うために必要な能力を養うことを目的とする。後期博士課程は、社会学、心理学、教育学分野について、研究者として自立して研究活動を行い、その他の高度に専門的な業務に従事するために必要な卓越した研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。 |
| | 社会学 | 社会学研究科社会学専攻は、人間行動・社会・文化に関する深い専門性と広い学際性を備えた学識を授け、高い見識を持って第一線で活躍する研究者および高度の専門性を備えた職業人を育成することを目的とする。 |
| | 心理学 | 社会学研究科心理学専攻は、厳密な実証科学としての心理学を知識と技法の両側面から習得し、高い見識を持った自立した研究者を育成すること、および高度に専門的な業務に従事する職業人を育成することを目的とする。 |
| | 教育学 | 社会学研究科教育学専攻は、教育という関心と視座から広く人間形成に関わる営みを理論的、歴史のおよび実証的・実験的な方法によって探究する研究者・高度専門職業人を育成することを目的とする。 |
| 商学 | 商学 | 商学研究科は、福澤諭吉の実学の精神を「商学研究」において継承し、理論と実証を通じて現代のグローバルな産業社会を把握し、進歩と変革の方向を洞察することを教育と研究の基本とする。教育においては、この基本を踏まえ、経済社会の複雑な諸問題を適切に解決できる高度な知識と豊かな教養を備えた、社会のリーダーとして活躍しうる自立した研究者やプロフェッショナルの養成を目的とする。 |
| 医学 | 医学研究系 | 医学研究科博士課程では、基礎医学と臨床医学の関連分野において、気品と智徳を備え独立自尊の精神の下に医学研究・医療を実践できる、国際感覚と自立心にあふれる医学研究者や医療従事者を育成するための教育と、医学研究の実践により、幅広い視野と専門性を兼ね備え、独創性の高い基礎研究や疾患の病態メカニズム解明や診断・治療・予防法の開発などの先端医療につながる基礎研究・臨床研究を推進できる、将来の医学研究・医療を先導するリーダーとなれる人材を養成することを目的とする。 |
| | 医療科学系 | |
| | 医科学 | 医学研究科修士課程では、自然科学領域や人文・社会科学領域で学んできた人々を対象に、医学研究・教育と医療実践の場である本学大学院医学研究科と大学病院において、医学研究に対して広い視野と深い論理的思考を獲得させること、研究成果の社会的な重要性を自覚させて研究への強い動機と自律的に活動できる強い意欲をもたせることを教育方針として、医学研究に取り組むことにより、医療に深い造詣を有する高度の職業人の養成とともに、将来、多様な分野で活躍できる人材を養成することを目的とする。 |
| 理工学 | | 理工学研究科では、「科学技術の探求」と「人間社会への貢献」の相互発展においてグローバル社会でリーダーシップをとれる学生を育てるために、学生一人ひとりの固有の才能を引き出し、主体的に問題を見出し課題を要素化し、学術と先端技術を駆使して取り組む能力を育てることに教育の目的を置く。さらに、世界的レベルで独創的な成果を生み出す研究能力と同時に、社会的指導力を養成することを目標とする。 |
| | 基礎理工学 | 数学から生命科学にいたる広範な自然科学分野およびその直接の応用であるテクノロジー分野までがボーダレスにかつ有機的に総合した「基礎理工学」専攻において、将来にわたり「工学的応用を想定した理学、科学法則の理解に立脚する工学」という広い視野と、理工学の盤石な基礎知識と飽くなき問題意識を持ち、精緻な論理に基づいて物事の本質に迫り、勇気と情熱、使命感をもって自らが前人未踏の新分野に挑戦し、未来における科学と工学の新機軸を創出し続けることで、グローバル社会の先導者たりうる者を養成する。この目的を達成するため、研究室において指導教員からの体系的な研究指導、および他分野を含む広領域研究教育分野の教員からの授業科目による大学院教育を通して、次世代における最先端科学・技術分野を創成しえる能力を備えた研究者・技術者の人材養成を行う。 |
| | 総合デザイン工学 | 総合デザイン工学専攻では、人間の創造力、構想力、実行力をもって生活、産業、環境に働きかけ、それらの改善を図る営みである「デザイン」が工学の本質かつ原点であるとの認識から、具体的な「ものづくり」に取り組む姿勢を重視する。この観点から、構成要素を統合して優れたデザインの人工物を開発し、システムの構築にまで関わる科学技術の諸分野を1つの専攻領域と捉え、総合した研究教育を展開する。総合デザイン工学がめざす基本概念および必要とするアプローチ・思考方法に基づき、各研究領域で求められる具体的な課題に挑戦し、技術開発に実際に取り組むことを主眼においた教育と、先端的・萌芽的な分野に触れることができる研究環境を充実させる。これにより、人工物および要素技術を最適に組み合わせた工学システムを開発することで広く社会の発展に貢献でき、さらには未開拓な領域に積極的に挑戦するマインドを持つ人材を育成することを目標とする。 |
| | 開放環境科学 | 開放環境科学専攻では、周囲の環境と不断に情報や物質の交換が行われている開放系の科学を樹立するために、空間、都市、資源、エネルギー、環境、情報ネットワーク、社会組織など、幅広い分野にわたって、現実世界の具体的な問題について考究する科目を設けると同時に、社会基盤システムの構築に資する新しい方法として、問題空間の探索や現象学的解析、システムに自律性や不測の事態への適応能力などを具備するデザインの実例を豊富に紹介し、新たな学問的基盤の充実に注力している。これらの教育方針に沿って、新しい科学とも言うべき開放系の科学を樹立し、科学技術に飛躍的なブレイクスルーを起こそうと志す人材を養成することを目標とする。 |

| | | |
|-----------------|------------------|--|
| 経営管理 | 経営管理 | <p>経営管理研究科は個としての自立心、他の尊厳を重んずる精神、明確な使命感、卓越した見識、果敢な実行力を合わせ持つ、優れた革新的リーダーを育成することにより、経済社会の発展と進歩に寄与することを目的とする。</p> <p>(修士課程MBAプログラム)</p> <p>不確実な環境で将来を見通し、ビジョンを持って目標を定め、戦略的な意思決定を行うための経営全般に関する知識と、社会と組織を先導する使命感やマインドセットを持ったリーダーを育成することを目的とする。</p> <p>(修士課程EMBAプログラム)</p> <p>職務経験15年以上の中核人材が、週末を中心としたカリキュラムで学ぶプログラムであり、異業種・異職種の人たちが切磋琢磨し合いながら、経営の知識だけでなく、経営者としてのマインドセット、国際感覚を備え、世界的な視点、長期的視野に立って社会を先導するリーダーに育つことを目的とする。</p> <p>(後期博士課程)</p> <p>経営に関する専門的な研究・教育機関において研究と教育活動に携わる研究者を養成すること、および研究・教育機関以外の専門機関において高度の専門家として活躍する人材を育成することを目的とする。</p> |
| 政策・メディア | 政策・メディア | <p>政策・メディア研究科は、社会のニーズに応えるための分野横断的な視点と専門知識を持ち、実践的な問題発見・解決能力を有するプロフェッショナルの養成を目指している。また、その養成においては、技術イノベーションや社会イノベーションの創出とその融合、社会への問いかけや社会実装の実践、異分野の研究者や学生とのコラボレーションを重視し、政策、ガバナンス、社会イノベーション、環境、ICT、メディア、身体スキル、生命科学などの分野を複合的に学び、次世代情報社会のリーダーとしてグローバルに活躍できる人材を育成することを目的とする。</p> |
| 法務 | 法曹養成（法科大学院） | <p>法務研究科は、本塾建学の精神に則り、学理および応用を教授研究し、法律に関する高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識および卓越した能力を培うことを目的とする。</p> |
| | グローバル法務 | |
| 健康マネジメント | 看護・医療・スポーツマネジメント | <p>本塾建学の精神に則り、学理および応用を研究教授し、人々の健康に資する保健・医療・福祉の在り方を構想し、科学的方法に基づく高度な実践・マネジメントに求められる深い学識および卓越した能力を培うことを目的とする。</p> |
| システムデザイン・マネジメント | システムデザイン・マネジメント | <p>あらゆる問題が大規模・複雑化、解決困難化する現代社会において、新たな技術システム・社会システムをデザインするためには、問題全体を俯瞰的に捉えるとともに、対象とするシステムを詳細まで緻密にデザインする、「木を見て森も見る」力が不可欠である。このため、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科では、既に何らかの専門性を有する学生に対し、システムズエンジニアリング、プロジェクトマネジメントおよびシステム×デザイン思考をベースとする分野横断的学問「SDM学」の教育を行うことによって、大規模・複雑システムのデザインとマネジメントを行う能力を養うことを目的とする。これらのSDM学の基本をコア科目で学び、関心分野の専門性を専門科目で深め、さらに実践的な能力をプロジェクト科目および特別研究科目で高める。</p> |
| メディアデザイン | メディアデザイン | <p>The mission of the Graduate School of Media Design (KMD) is to develop creative leaders and innovators who have the ability to globally collaborate beyond disciplines and cultures to innovate create social value. The official language of KMD is both English and Japanese. The curriculum is structured to have practical projects with external partners at its core, to acquire practical skills and theories including research and development of advanced digital technology, project management under multi-location and cultural environment, product and service design, business model and policy recommendations.</p> <p>メディアデザイン研究科（KMD）は、専門分野や文化の枠を超えてグローバルに協働してイノベーションを起こし社会に向けて価値を創出する能力を持つ創造力豊かなリーダーやイノベータの育成を目的とする。そのために、KMDは英語と日本語を公用語とし、カリキュラムは外部と連携する実践的なプロジェクトを中心に構成している。プロジェクトを通して、デジタルメディアを中核とした先端技術の研究開発、複数拠点および多様な文化を連携するプロジェクトマネジメント、コンテンツやサービスデザイン、ビジネスモデルや政策提言など幅広い実務スキルと理論を獲得することを目指す。</p> |
| 薬学 | | <p>本塾建学の精神に則り、薬学における学理およびその応用を教授研究し、医療・創薬に関わる分野で求められる卓越した学識と創造性豊かな研究能力を培うことを目的とする。</p> |
| | 薬科学 | <p>薬科学専攻では、創薬、臨床開発、環境・生命科学などの幅広い薬科学分野の発展に貢献し、将来同分野のリーダーとして国際的に活躍する、未来を先導する研究者・教育者の育成を目的とする。</p> |
| | 薬学 | <p>薬学専攻では、科学の基盤と医療人としての高い倫理観を持ち、高度な薬物療法および薬学研究の実施に貢献し、各界で活躍できる指導的な薬剤師・研究者・教育者の育成を目的とする。</p> |